



(京都西南部)

京都・長岡京跡

の調査は、四条三坊・四坊を対象とし、木簡は二点出土した。

一 左京四条三坊（第五調査区）

この調査区で検出された長岡京関係の主な遺構は、掘立柱建物二棟、柵列、溝、土壙などである。木簡(1)が出土したのは南廂付き建物(東西二間×南北三間)のすぐ東側に掘り込まれた土壙内からである。

二 左京四条三坊（第二調査区）

ここで検出された長岡京関係の遺構は、掘立柱建物五棟以上、柵列、溝、土壙など多数ある。木簡(2)が出土したのは、建物跡に隣接して検出された土壙のひとつで、土器、木製品と共に発見された。

8 木簡の釈文・内容

(1) 「山村里四月十八日」

・「^[知カ]額田部庭虫」

123×27×7 032

(2) 「白□□法□□□」

・「八月六日」

109×17×5 051

9 関係文献

付記 木簡解説については、奈良国立文化財研究所の鬼頭清明氏・加藤優氏におねがいしたものである。

(鈴木久男)

助京都埋蔵文化財研究所は、外環状線街路新設工事に先だって、
京都府伏見区羽束師菱川町の南
側を東西方向に発掘調査を継続
的に実施している。調査対象地
は、長岡京左京四条二坊・三坊
・四坊に位置する。調査は一九
八〇年(昭55)より開始した。
最初の調査では四条四坊より建
物、土壙、井戸などが検出され、
土壙の中から奈良時代の戸籍断
簡が出土している。一九八一年

掘調査報告書』

助京都埋蔵文化財研究所『長岡京跡—京都都市計画道路一等大
路第三類第四六号外環状線整備事業に伴う埋蔵文化財発
掘調査報告書』

一九八一年

木簡解説については、奈良国立文化財研究所の鬼頭清明氏・加藤優
氏におねがいしたものである。